

基調講演

演題：地球温暖化防止に向けた取組

講師：滋賀県地球温暖化防止活動推進センター キャリアアドバイザー 来田博美氏

- ・淡海環境保全財団は、知事から滋賀県の地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、地球温暖化対策の普及啓発を中心として活動している。特に滋賀県では、滋賀県地球温暖化防止活動推進員というボランティアが、知事から委嘱を受けて活躍している。
- ・本日のポイントは“地球温暖化の影響”、“なぜ、地球は温暖化したのか”、“気候変動とSDGs”、“温暖化防止のためのボランティアの活躍”の4点。
- ・初めに地球温暖化の影響について。今日も大変暑い。東京では停電で電車が停まり、熱中症を患った乗客がいる模様。昨年台風21号では帰帆島公園やその中にある私たちの財団事務所建物も被害に遭った。今も台風が三連続で来るのではないかとされているが、台風が大型化している。
- ・滋賀県はあまり災害が起こらない地域と安心していただけたと思うが、いよいよやってきたなと感じている。また、身近で徐々に温暖化の影響を感じ始めている。
- ・私の家族が岡山在住で、昨年7月の西日本豪雨災害の際は「岡山市内全域に避難指示が出たが、どうすれば良いか」と尋ねられた。夜の11時、外は暗くてその時の雨の状況が分からない。水路も多く避難所の傍に川があり、堤防が決壊する恐れもあったため答えに窮した。
- ・スマホのアプリで岡山市内全域の河川の状況が分かった。全部の河川が危険水位となり氾濫が起きている状況で心配もしたが、最終的には現場の自分の判断しかないと考え、自身の決断に委ねるしかなかった。
- ・幸い事なきを得たが、私も他人事ではない体験をした。今後皆さんと家族にも起こり得ることと思う。こうしたことの数や頻度の増加を少しでも遅らせるために温暖化防止に努めて欲しい。また、今後熱中症の危険性も増すし台風も大型化する。いざという時にどうすべきか、日頃から考えておいて欲しい。
- ・ここで質問。大雨や洪水などで冠水した場合、“傘”、“水”、“預金通帳”の3つはいずれも大事だが、何を最優先に持って避難すべきか。会場内では“水”が多いようだが、冠水時は足元をチェックするために“傘”を持っていただきたい。“水”は避難所で補給できる可能性があるが、まずは安全にそこにたどり着くことが第一で、地面の状況を確認できる“傘”は重要な役割を果たす。
- ・最近、35℃以上の猛暑日や熱帯夜が増え非常に危険な状況となってきた。このまま何の対策もしないと今後ますます加速していく。
- ・産業革命以降、地球の気温が上昇してきた。気温上昇には地域差が見られる。2050年まででも北極の方で変化が見られる。年数を経てさらに気温が上昇する現象が起こる。
- ・IPCC第5次評価報告書によれば、世界の平均気温は現状以上の温暖化対策を取らなかった場合、2100年には人間が今のように暮らしていけない、生物の生態系も脅かされるというシミュレーション結果もある。
- ・パリ協定では、産業革命以降の気温の上昇を2℃以内にとすると世界全体で決めたが、そこまですすCO2排出量は約3兆トンとされている。しかし、既に約2兆トンを排出済み。残りは1兆トンだが、ここ数年と同じCO2の排出量が続くと2040年頃には到達し、その頃には2℃上昇していると言われている。2030年のSDGsの目標達成と同じように、こちらも非常に厳しい状況にある。
- ・ただ、何の対策もしなければ、さらに早まる可能性がある。また、SDGsに対しても13番のゴール（気候変動）は非常に大きなウエイトを占めていると思う。
- ・気候変動とSDGsの他のゴールとの関連を考えた。気候変動が起こり、海水温度が上昇すると今までのよ

うには、魚が住めない世界になる。それから農作物への影響が出て食に困る人が出てきたり、干ばつで水が手元に届かなかったり、災害被害に遭うことも考えられる。

- そうすると経済の基盤構造も崩壊してしまう。その影響として、就労困難、健康被害、貧困などが生じ、さらにその影響でジェンダー不平等や貧富格差が拡大し、さらにその影響で最悪の場合は戦争に至るといふことも考えられる。
- では、なぜ気候変動が起こったか。皆が環境に配慮せず、化石燃料をたくさん使い便利な生活を追求した結果だ。ではなぜそういうことに考えが至らなかったかという点、根本の教育にあるのではないか。環境教育はSDGsを達成させるためにも一番重要。そのためにパートナーシップは外せない。各ゴール間のパートナーシップがなく連動できなかった結果、現状があると思う。
- 子どもたちはこのような現状をどのように考えているか。昨夏、スウェーデンのある少女が気候変動問題を訴え、学校や国会前でストライキを起こした。大人たちに向かって「子どもたちを何より愛していると言いつつ、子どもの未来を奪っている。それよりも、今やれることをやれるうちにどうしてやらないのか」と。
- この呼びかけに世界の子どもたちがこのような気候変動ストライキを始めている。3月に行われたストライキでは125か国、2083カ所、150万人以上が参加したと言われている。しかしながら日本では報道がされていない。まだ少ないが、こうした動きがあることを知っていただきたい。
- 環境省がクールチョイスという運動を展開しているが認知度は低い。特に家庭部門。2030年までにCO2を40%削減しなければならないが、まだまだできていない。
- 滋賀県の温暖化防止活動については、滋賀県地球温暖化防止活動推進員がボランティアで活躍。彼らは地域のキーマンでもあり、ボトムアップを図る活動をしている。彼らの力をもっと活用して欲しい。
- 具体的な活動はイベントや出前講座など。非常に好評で、県から委託された今年度分の講座数を既に終えた。推進員が熱心に取り組んでおり、マニュアルや講座で使う教材の実験装置等の作成なども行っている。
- 自分たちの暮らしと琵琶湖の繋がりを学ぶ教材として、“生きている琵琶湖”を今年作り、琵琶湖フローティングスクールの事前学習として活用。水、エネルギー、まちづくりなどが“つくる責任 つかう責任”、“気候変動”、“海の豊かさ”、“森の豊かさ”と繋がっている内容。そうしたことを織り交ぜて説明しながら子供たちが、様々なことを考えたり気付いたりしてもらおうプログラムにしている。
- その他、環境省の公的資格を得た診断士が家庭の省エネの取組をアドバイスする“うちエコ診断”の事業も行っており、この診断士もボランティアの推進員である。また、自主的に行政と連携しながら活動しており、自発的に勉強会を開催するなど、知識やスキルアップに取り組んでいる。
- このようにボランティアにも活躍してもらいながら地球温暖化防止に取り組んできた。今後の温暖化対策は様々なことと関連して進めていくべきであり、SDGsを意識して進めていきたい。是非ここにお集まりの皆さんのご意見、お知恵、アドバイスをいただいて、これからも温暖化防止に努めて参りたい。
- 気候変動対策はSDGsに必須のものと考えており、世界中のすべての人々が取り組んでいかねばならないものである。SDGsのためにも地球温暖化防止へのご協力をよろしくお願いしたい。

(質疑)

【質問】

- ・ボランティアの推進員が行く出前講座の頻度は。

【回答】

- ・現在、年間 120 講座。様々な推進員で手分けしている。また、1 人で行くこともあるし人材育成の観点からベテランと初めての方が一緒に行くこともある。この人材育成方法は非常にうまく回っている。

【質問】

- ・先ほどのデータは地球誕生後の何万年経つ中のわずか 100 年くらいの話で、皆が納得できる確証に至るものではないのでは。近年の温暖化は間違いないが、今後気温が下がることも有ると思う。

【回答】

- ・CO2 濃度に関しては過去の観測が可能でありここ最近の急激な上昇により今までにない CO2 濃度になっている。
- ・大昔、人類が生きていけないほど地球の気温が高い時代があったようだが、人類が生きていくという今の形を維持するためには、これ以上温暖化を進めては難しいと言える。

【質問】

- ・海外での大規模な山火事をニュースで時々見るが、山火事でも CO2 が大量に排出される。CO2 排出量を減らそうと努力しても、山火事が発生してはどうしようもないので、防火が先決ではないか。

【回答】

- ・温暖化による気温上昇が空気の乾燥を招き山火事が起こりやすくなる。山火事で CO2 が排出されるといふ悪循環。気温の上昇で悪循環がさらに酷くなるので、CO2 の排出を増やさない努力が必要である。

【質問】

- ・地球上の人類全体で温暖化問題を考えていく必要があるが、認知することが重要だ。これまでの活動の中で認知を広げるうえでの課題とその障壁となっているものは何か。

【回答】

- ・まだ関心がない方が多い。また、地球温暖化のことを知っている、最近の気候がおかしいと感じていても、温暖化と気候のことが結びつかないとか、自分は何もできないと思うケースが多い。どのようにして皆さんにしてもらい、行動に結びつけてもらうが課題。

【質問】

- ・個人だけではなく、民間企業もボランティアに参加しているのか。

【回答】

- ・滋賀県と連携協定している企業とタイアップするなど、民間企業とも連携している。皆で取り組んでいくためには個人だけでなく企業との連携は必要である。今後そのような機会を増やしていきたい。

以上